

領域実践交流シート（保護者負担軽減）

石狩市立花川南中学校 加藤裕之 2013/7/12

見つかった課題	<p>本校の学校諸受（各教科の実験実習費等）については、事故防止の観点によりロ 座振替にて徴収している。その担当は校務分掌により事務職員が従前から行って いた。赴任当初、とりまとめの教務係から示された数字を何の疑いもなく振替シス テムに入力していたが、後でよくよく話を聞くと、各教科担当の意向をそのまま数字 にするだけの「単なるとりまとめ」であり、金額の検討も不十分であったことが判 明した。</p>
驩題解決に向けた 行動の経過	<p>各教科担当者に徴収内容などを破調し、十分な内容の精査依頼、一部公費化の検 討などの協議を行った。赴任1年目ということで年間配分予算の流れも不明だった ため、その年の執行などに十分留意し、灰年度予算への道筋を立てた。</p> <p>新年度に入り、教務担当であった「とりまとめ」の連絡を事務係で行うように変 更し、その連絡文書に「内容精査、保護者負担軽減に十分努めること・・・」等 を盛り込んだ。その後、各担当から提出された徴収内容をもとに個別協護を行った結 果、一部公費化が実現し、若干ではあるが負担軽減に努めるとができた。</p>
行動する上で見え たこと	<p>担当者との協遜の中で幾つかの課題も見つかった。市の財政状況圧迫により、公 費負担は無理であろうという教員サイドの諦め感や購入業者や安価物品などの情 報不足、教員と事務職員のコミュニケーション不足が保護者に負担を強いていたよ うであった。また、徴収内容に着目すると、各教科共同購入した方が良いものや安 価な代替えで済むものなど、大いに検討の余地はあるように恩われた。</p>
とりくみの結果、 何がうなったか	<p>2年前の理科の全額公費負担を発端とし、各教科やその他徴収金においても僅か ではあるが負担軽減が進み、職員の意識にも浸透しつつある。当然、配分予算へ の圧迫は否めないが、事務職員サイドにおいて日々の予算執行を十分検討していく とともに、「公教育の無償」を掲げ、職員全体が教育予算増額へ向けた意識、更 にはとりくみの充実化を図っていく必要がある。</p>
とりくみの感想な ど	<p>いつぞや・・・理科担当との会話 事務「俺素人で悪いんだけど、理科の指導において実際〇〇円も必要かい？」 担当「あるに越したことはないけど、工夫によってどうとでもなるかも・・・」 事務「せっかくの工夫で逆に手抜きと見られない？」 担当「金かけりゃすごいことができるけど、自分の研究のためにもならんし、あん まり子ども達の印象にも残らんよ（笑）」 事務「なるほどね・・・」 結果、担当者の尽力により、徴集額もかなり圧縮され、全額公費負担となる。</p> <p>またある時、音楽担当との会話 音楽「現在ワークで〇まる集などを買わせているのだが非常に高額で使わないとこ ろも多く無駄である。ホントに必要なところを印刷し、ファイル等に入れて渡して あげた方がムダ金使わなくて済むんだけど、1冊〇〇円、学年人数分〇万円、公費 で何とかならんかい？」 事務「プラス印刷経費ねえ・・・。〇〇さん、印刷やら毎回面倒じゃないかい？」 音楽「大したことはないよ。負担軽減でしょう！」 事務「そうでした・・・（苦笑）」結果、印刷費込で〇万円程度</p> <p>またまたある時・・・教頭との会話 事務「連携会議の調査でわかったんだけど、南中の宿泊学習費って一番高いだよな なあ～」 教頭「う～ん」 事務「民間ホテルラ利用や研修内容も高額の理由らしいよ。」 教頭「3年部に働きかけてみるか・・・」 事務「道立などの公共施設を廟べでおくわ・・・」 そして後日・・・ 担当「探してくれた施設で今回の研修、何とかかなりそうです」</p>

事著「値段は？」。
担当「昨年の3分の2以下で済みそうです」。
事務「指導などで支障ありそうかい？」
担当「とりあえずやってみます！」
その後の反省で公共施設ならではの手続きの煩雑さや、同宿泊団体(某高校)との指導上の関わりもあり、色奄大変だったとの事・・・。
新たな課題も検討しつつ、今後を活かす方向で決定。ご苦労様でした。

こんな担当者は今の学校現場において、ある意味「まれ」なのかもしれない。
しかし、現実に存在するのも確かである。同じ学校現場にいて同じ学校職員であり、子ども達の豊かな成長を願う気持ちは同様である。
豊かな成長を促すための「より良い環境づくり」のとりくみが重要となってくる。
小難しい指導要領や教育課程など、全てを熟知する必要もない。お互いの持ち分(教授活&財政財務活動)を十分理解しつつ、時には大いに議論し、日常コミュニケーション(属人の教育情報活動?笑)を充実していけば、未来は明るいのではなかろうか?行動すれば何かが変わる!!!

以上、加藤個人のとりくみでした。全くもって属人的なとりくみでしたが、「単なる属人のとりくみ」としてとして終わりにするのではなく、連携会議などで十分議論・検討していただき、「学校間連携」のとりくみの一端として扱ってもらえれば幸いですし、熱望もします。

PS : 音楽担当のボツリ一言

「加藤さんいる間、買ってくれるけど、次のヒトでどうなるかな・・・」
ドキツとした。各担当の努力に報いるためにも、花川南中においては、最重要事項として必ず引き継ぐべきと心に誓うと同時に、他校においても同様な状況であってほしいなあ〜と心底思った瞬間でした。

領域実践交流シート（保護者負担軽減）

学校名【石狩市立花川中学校】 記入者【中川雄二】 作成日【2013/7/24】

見つけた課題	<p>本校では昨年度までPTA会費を6千円徴収していた。かつては7千円だったが前任者（事務職員）前任者の努力で2010年度より6千円となった。それでも他校に比べると二倍近い金額となっていることが、連携会議の調査からも明らかとなっている。本校は小規模校で、かつ市内の特認校として他校にはない取り組みも多いことから、PTAに頼らざるを得ない部分が多く、金額も高額に設定しなければならない事情もあったようである。PTA会費からの支出の中でも収穫祭(学校行事)における費用や歩くスキーの購入費など、本来学校予算から出さなければならないものもみられ、また保護者負担軽減の観点からも見直しが必要と考えていた。</p>
<p>課題解決に向けた行動の経過</p>	<p>昨年夏に、偶然に教頭の方からPTA会費見直しについての相談があり、二人で取り組みをはじめた。まず、学校行事や「歩くスキー」の購入費等の学校教育に係る部分は、極力学校で出す方向で検討を行い、その他の項目についても（旅費、学年活動費等）金額の見直しを検討した。</p> <p>11月の役員会、2月の合同委員会を経て、4月の総会で承認された。</p>
<p>行動する上で見えたこと</p>	<p>本校に赴任した当初から、学校行事である収穫祭の費用をPTAから支出することには疑問を持っていたが、消耗品の予算が少ないことや購入業者が限定されることから、学校配分予算での購入は困難と感じていた。そのような時、教頭から学校奨励プログラムから支出が可能ということで、課題を克服はできたが、そもそも学校奨励プログラムの配分額がいくらあり、どのようなものに支出が可能かということが、職員会議などで提示されないところに問題点があるように感じる。</p> <p>また、役員会で検討した際に「安い方がいいけど、特認校なので、高いことは仕方ないと思っていた」という話も聞くことができた。</p>
<p>とりくみの結果、何がうなったか</p>	<p>収穫祭の食材・必要な消耗品（約8万円）は学校奨励プログラム事業から支出することとし、歩くスキー購入費については、現在の在庫等を調べた結果、10万円から6万円に予算を削減しても可算という判断となった。また他の費目(学年費、旅費、事務局費)なども支出見直しを行った結果、年間6千円から4千800円へ削減することとなった。</p>
<p>とりくみの感想など</p>	<p>年間1,200円も削ることができ、それなりに成果はあったと考えているが、学校奨励プログラムの予算・決算やどのような鞍ものに使えるということが全体に周知されていないという現状は、改善していく必要があると感じた。また、「歩くスキー」については、金額が減少したものの、PTAに頼っている現状は変わっていないので、少しでも学校予算からの支出が可能になるように、検討をすすめていきたい。</p>

領域実践交流シート

学校名【八幡小学校】 記入者【森田政浩】 作成日【2013年7月】

見つけた課題	<p>本校に赴任した当時、予算の校内再配分は行われていなかった。また、学級教材費に関しても、曖昧な支出が行われているように見受けられた。(特に学級活動費の部分)</p> <p>保護者負担の軽減の視点から、学校で負担できる物は学校(市経理)で、必要なものを保護者から徴収しては?と学級教材費を決める打合せで発言したところ(平たく言うと消耗品関係は学校で持てるから保護者の方の支払額を少しでも下げてみましょう。という感じ。)</p> <p>当時の教務より「自由に使えるお金がないと困る。」という話があり、この新参者が!と思われても嫌なので、今までと同様にした。</p>
課題解決に向けた行動の経過	<p>その後、学校で支出できる共通の物(画用紙やのり等)は学校で用意している。だが、金額は下がる様子はないので、その「自由に使えるお金がないと困る。」と言う考え方は今も生きているのかもしれない。修学旅行等でもしおり用のファイルや用紙等は学校の消耗品で用意しているが、なくなるはずの微調整の分は、”きり”を重視しているのかいっこうになくならない。その分準要保護で支給されないお金が増えるのだが・・・。</p>
行動する上で見えたこと	<p>そもそも、保護者と教員側のお金に対する考え方に乖離があると思う。教員側の考え方はいくつかあげられると思うが・・・。</p> <p>① 現金で持っていれば、安く、自分の好きなものを買うことができる。本来、公予算で購入できるものをわざわざ負担させてしまっている。</p> <p>② 教材費とはかけ離れるが”いいことだからお金がかかってもしょうがない”、”子どもの言うことを100%聞いてあげたい”という考え方。(宿泊研修や修学旅行の自主研修がどんどんエスカレートしていく→お金がかかる)</p>
とりくみの結果なにがどうなったか	<p>これといった結果はあらわれていない。</p>
とりくみの感想など	<p>ずっと同じような悩みではある。解決の方策としては、今までとさほど変わらないが、計画段階で情報を入手し、分析し、裏付けをもち、”このような感じにしよう”と提案していくことが考えられるが・・・。</p> <p>ただ、1度やってしまうとなかなか後戻りが出来ないことや職員間の(学校として)意思の疎通(統一)が取りにくいのも問題点かもしれない。</p>